

PROMENADES FRANÇAISES À TOKYO

プロムナード・フランセーズ・ア・トーキョー

SHOPPING & GASTRONOMIE
ショッピング & ガストロノミー

REGARD SUR L'ART DE LA TABLE À LA FRANÇAISE

フラワー&テーブルコーディネーターの視点

フランス磁器と歴史に彩られた食卓芸術

フランスの食卓芸術に於いて、フランス磁器を語らずして、その文化に触れる事はできません。その文化の礎となったのは、初めてヨーロッパで磁器作りに成功したドイツのマイセン、オーストリアのアウガルテン、そしてフランスのセーブルの存在ではないでしょうか。

ボンパドール夫人に庇護され、その後マリー・アントワネット、ジョセフィーヌの食卓を飾ってきたセーブル王立磁器製作所は、今でも国立となり国家間での贈答品を製造するなどの役割を担っています。このセーブルのあとを追って、リモージュでは次々と高級磁器が作られ晩餐会を彩ってきました。

さらに、王政崩壊でベルサイユを追われた多数の料理人たちが、数多くのレストランを開きました。それはフランス料理と共に、サービスを含めた食文化、食卓芸術を花開かせた黄金時代となりました。その経歴によりフランスは世界が認める食大国になり、現在でも多くのクリエイターが、魅力に溢れるフランスの食卓芸術を発信しています。

また、日本とフランスの食卓芸術は、お互いを理解し尊重しています。マリー・アントワネットが日本の漆器を大切に集めていたのは有名ですが、有田、伊万里の磁器もフランスの王侯貴族に愛されてきました。両国に共通するのが、良いものを長く使い、老舗を守り、職人の技を絶やさない姿勢です。職人の魂が宿る食器は優れた芸術品であり、それを大切に使う家族の歴史や思い出が加われば、世界で一つの宝物となるでしょう。



鬼頭郁子

フラワー&テーブルコーディネーター
株式会社ミュージゼ 代表

プロフィール

聖心女子大学卒。全国から生徒が通う、花とテーブルコーディネート
の教室を持つ。銀座に日本唯一の
「アビランド」公式販売店「イザベラ
コンスタンチン」をオープン。
著書も多数。

Website: musee.co.jp